

(2) 講 評

○委員長 それでは、講評をさせていただきます。

まず1番の世界測地系における国内位置基準の監視の高度化に関する研究は、分科会の評価にもありましたように、研究成果としては高いものが挙げられていると考えられるということです。むしろ今後に関して、VLBIの観測がかなり重要な課題、特に2010年仕様に対応して適切に行っていけるかどうかということが大きな課題として挙げられてきている。技術指針の取りまとめが行われているので、それに基づいてVLBIの観測の実施をしていっていただきたいというのが今後の課題であるということになりました。

2番目のGPSによる地殻変動監視の信頼性向上のための大気擾乱の影響評価に関する研究、本課題に関しては十分な成果を上げられていて、特にGPSの特異な変動が示されている部分に関して異常であるかどうかということをチェックできるような状況までは研究上、達成できたのではないかと評価しております。むしろ、この部分は将来期待される地殻変動のネットといいますか、真値を推定できるようなところまで持っていけないかということがあります。それをやるには、1.5kmメッシュの気象といいますか、大気状態の推定が十分信頼性が得られるものでなければまずいだろう。そういう意味では、気象関連部門とも連携しながら、その部分の精度を上げられるように十分検討されて、先ほど来の異常場所をチェックするだけではなくて、全体の地殻変動値を推定できるようなところまで持っていくような研究を展開されたいということでした。

3番目の地震災害緊急対応のための地理的特性から想定した被害情報の提供に関する研究に関しては、斜面崩壊、液状化あるいは地すべり、それぞれの課題については緊急にどういうところが危険であるということを推定するという意味では非常に有効な研究成果を挙げていると評価できるということです。今後、検討してほしいのは、限られたデータを使って推定していますけれども、今後はさらに多くの資料を使って精度を上げるような研究を展開されると、期待される成果が挙げられるのではないかと思います。特に最近では防災から減災へということが叫ばれている状況では、地震後速やかに危険と予測される地域が推定されるということは非常に大事な情報になるということなので、官庁、地方自治体ばかりではなくて国民からも大いに期待される研究テーマだと思われるので、大いに発展させていただきたいということでした。

以上が私からの講評ということですが、委員の方でつけ加えていただくことがあります。

ましたらお願いします。

よろしいですか。――ざっくばらんな話、地理院への期待は前からも高まっているんですけれども、これからもますます高まっていくということなので、慎重かつ大胆に研究を発展させていきたいというのが皆さんの御意見でした。